

特集 : SunSystems 標準帳票の出力

今月は、SunSystems で入力した仕訳を、SunSystems 標準の帳票に出力する方法と、画面上で照会する方法について、ご説明いたします。

1. 前提

SunSystems から出力する帳票は大きく 2 つに分けることができます。

(1) ユーザー定義帳票

SunSystems では、勘定科目や分析コードなどのマスターをユーザーが自由に設定できるため、設定したマスターに対応させて、帳票も自由に設計することができます。このようにユーザーが設計を行う帳票をユーザー定義帳票と呼んでいます。

(2) 標準帳票

仕訳帳 (Journal Listing)、総勘定元帳 (Account Listing)、試算表 (Trial Balance) などのように SunSystems に標準で設定されている帳票を標準帳票と呼んでいます。

2. SunSystems で標準帳票を出力する方法

以下では、仕訳帳 (Journal Listing)、総勘定元帳 (Account Listing)、試算表 (Trial Balance) の順に、標準帳票の出力方法をご説明いたします。ユーザー定義帳票については、機会をあらためて取り上げる予定です。

(1) 仕訳帳の出力 (JL=仕訳帳出力指示[Journal Listing])

SunSystems の仕訳帳 (Journal Listing) は、転記 (Post) した仕訳データを仕訳帳の形式で出力します。また、出力したい仕訳データを絞り込むための条件を設定することができます。

仕訳帳 (Journal Listing) の出力は、「LA=元帳会計 (Ledger Accounting)」から、「JL=仕訳帳出力指示 (Journal Listing)」の画面を開いて行います。

●画面サンプル 1-1. LA=元帳会計から JL=仕訳帳出力指示 (Journal Listing) の画面を開く

項目	初期値	空欄時の値
書式コード	JL11J	仕訳帳
入力伝票形式	始め	全部
	終り	
仕訳入力者	始め	全部
	終り	
仕訳転記番号	始め	全部
	終り	
選択 入力会計期	(E)	E
入力日	(D)	
転記会計期	(A)	
入力会計期	始め	当期
	終り	(全部にはAを入力)
仮帳簿取引を含む	<input type="checkbox"/>	N
経歴ファイル含む	<input type="checkbox"/>	N
仕訳番号毎に改ページ	<input type="checkbox"/>	N
取引明細出力抑制	<input type="checkbox"/>	N

この画面で、仕訳帳 (Journal Listing) に出力したい仕訳データを絞り込むための条件を設定します。それぞれの項目についてのご説明は以下のとおりです。
なお、条件を設定せずにエンターで送った場合、画面右側の空欄時の値 (Assumption if Blank) が適用されます。

①書式コード (Format Code)

仕訳帳 (Journal Listing) の書式コード (Format Code) を選択します。
通常は、以前に選択した書式が自動表示されるので、そのままエンターします。

②入力伝票形式 (Journal Type)

仕訳入力時の伝票形式 (Journal Type) を指定します。

③仕訳入力者 (Journal Source)

仕訳入力時の入力者 (オペレータ ID) を指定します。

④仕訳転記番号 (Journal Number)

仕訳を転記 (POST) した時に採番される仕訳転記番号 (Journal Number) を指定します。

⑤選択 (Select By) | 入力会計期 (Entry Period) / 入力日 (Entry Date)
/ 転記会計期 (Accounting Period) [E / D / A]

仕訳帳を出力する際の期間の条件を以下の3つの中から選択します。

- ・入力会計期 (Entry Period) を範囲指定したい場合は"E"
- ・入力日 (Entry Date) を範囲指定したい場合は"D"
- ・転記会計期 (Accounting Period) を範囲指定したい場合は"A"

⑥始め/終り (From/To)

上記の⑤選択 (Select By) で指定した期間の条件について、具体的な範囲を指定します。

⑦仮帳簿取引を含む (Include Rough Transaction) [Y / R / 空欄]

※仮帳簿 (Rough Book) を使用していない場合は表示されません。

要件に応じて、次のうちから選択します。

- ・仮帳簿取引を含めて出力する場合は"Y"
- ・正式転記したものだけを出力する場合は"N"
- ・仮帳簿だけを出力する場合は"R"

⑧経歴ファイル含む (Include Archive) [Y / N]

PC=仕訳集計/更新 (Period Cleardown) の機能で元帳圧縮を実行した際に、経歴ファイルへ移行した明細データを含めて出力する場合には"Y"とします。含めない場合は"N"とします。

PC=仕訳集計/更新 (Period Cleardown) の機能で元帳圧縮を実行したことがなければ、"N"とします。

⑨仕訳番号毎に改ページ (New Page Per Journal) [Y / N]

仕訳転記番号 (Journal Number) ごとに改ページを行う場合は"Y"とします。

⑩取引明細出力抑制 (Suppress Transaction) [Y / N]

取引の明細を出力せずに、仕訳転記番号 (Journal Number) 単位や、特定期間の貸借合計金額を確認する場合は"Y"にします。通常は取引の明細を出力するので"N"のままにします。

各項目の入力が完了すると、カーソルは、画面左上の「選択 (Action)」のボックスに移動します。

P=プリンター出力 (Print Report) または、S=ディスク出力 (Store on disk) を選択して、帳票の出力を行います。

●画面サンプル 1-2. 仕訳転記番号を指定して仕訳帳 (Journal Listing) を出力

帳票を出力した会社 (データベース) 名

帳票を出力した日時

帳票を出力した条件

日本語デモデータベース JPY 仕訳帳 ページ 1 印刷日 2009/06/01 21:02

入力伝票形式: 全部 仕訳入力者: 全部 仕訳転記番号: 10 入力会計期: 全部

行 No.	勘定科目コード	勘定科目名摘要	取引日	支払日	借方金額	貸方金額	分析コード	
仕訳転記番号: 0000010 タイプ: GJPF 名前: 振替伝票-外貨 入力日: 2008/07/03 入力者:								
1	AR1101	Lockwood Education Authority	08/01/30	2008/02/28	3,843,360		1KK+	
		売上伝票	01/2008	SAL08132	30,600.00		125.800000000+	
2	8110	商品売上	08/01/30	2008/02/28		3,843,360	1KK+	
		売上伝票	01/2008	SAL08132		30,600.00	125.800000000+	
3	AR1102	Kingsway Productions Ltd.	08/01/30	2008/02/28	7,036,200		1AT+	
		売上伝票	01/2008	SAL08132	53,620.00		131.223424095+	
4	8110	商品売上	08/01/30	2008/02/28		7,036,200	1AT+	
		売上伝票	01/2008	SAL08132		53,620.00	131.223424095+	
					10,879,560	10,879,560+		
					84,220.00	84,220.00+		
					10,879,560	10,879,560+		
					84,220.00	84,220.00+		

仕訳データの項目 (ヘッダー) と実際の仕訳データが対応します。

仕訳転記番号 (Journal Number) "10" を指定し、それ以外の条件は指定せずに出力しています。

(2) 総勘定元帳の出力 (AL=総勘定元帳出力指示[Account Listing])

SunSystems の総勘定元帳 (Account Listing) は、勘定科目ごとに仕訳データを総勘定元帳の形式で出力します。総勘定元帳 (Account Listing) を出力する場合は、「LA=元帳会計 (Ledger Accounting)」から「AL=総勘定元帳出力指示 (Account Listing)」の画面を開きます。

●画面サンプル 2-1. LA=元帳会計から AL=総勘定元帳出力指示 (Account Listing) の画面を開く

この画面で、総勘定元帳 (Account Listing) に出力したい勘定科目や転記会計期を指定します。それぞれの項目については、次のとおりです。条件を設定せずにエンターで送った場合、画面右側の空欄時の値 (Assumption if Blank) が適用されます。

①書式コード (Format Code)

総勘定元帳 (Account Listing) の書式コード (Format Code) を選択します。
通常は、以前に選択した書式が自動表示されるので、そのままエンターします。

②勘定科目コード 始め/終り (Account Code From/To)

出力したい勘定科目を指定します。特定の科目のみ、もしくは範囲指定することができます。

③転記会計期 始め/終り (Accounting Period From/To)

出力したい転記会計期 (Accounting Period) の範囲を入力します。“A”を入力すると全ての転記会計期 (Accounting Period) が選択されます。

※損益計算書の勘定科目 (科目タイプ“P”) に関しては、複数の年度にまたがる会計期範囲を指定しても、指定された範囲の「終わり」の年度の取引のみが印刷されます。従って、損益計算書の勘定科目を対象に出力する際は、1つの年度だけを対象に会計期範囲を設定してください。

④経歴ファイル含む (Include Archive) [Y / N]

PC=仕訳集計/更新 (Period Cleardown) の機能で元帳圧縮を実行した際に、経歴ファイルへ移行した明細データを含めて出力する場合には“Y”とします。含めない場合は“N”とします。

PC=仕訳集計/更新 (Period Cleardown) の機能で元帳圧縮を実行したことがなければ、“N” とします。

⑤勘定科目毎に改ページ (New Page Per Account) [Y / N]

勘定科目毎に改ページを行う場合は“Y”、行わない場合は“N”とします。

⑥集計指示 (Summarise Required) [Y / N]

仕訳を集計して出力する場合には“Y”とします。集計しない場合は“N”とします。

具体的には、転記会計期 (Accounting Period)、取引日 (Transaction Date)、貸借 (D/C)、仕訳転記番号 (Journal Number)、取引参照番号 (Transaction Reference)、外貨換算コード (Conversion Code) が同一の仕訳を集計して出力することができます。分析コードや消込みコードを付与するために分割した仕訳をまとめて出力するような場合に使用します。

⑦訂正取引出力 (Report Corrections) [Y / N]

消込みマーク“C”で消込んだ仕訳を含めて出力する場合は“Y”、出力しない場合は“N”とします。

※SunSystems では、本転記した仕訳の内容は「摘要 (Description)」、「分析コード (Analysis Codes)」、「支払日 (Due Date)」を除いて修正できないため、仕訳の修正が必要となった場合は、あらためて訂正仕訳を計上します。この時、元の誤った仕訳と反対仕訳については、セットにして消込みマーク“C”で消し込むことで、帳票に出力されないようにできます。

⑧残高ゼロの勘定科目を出力抑制 (Report Corrections) [Y / N]

バージョン 4.3.3 より、残高ゼロの勘定科目を出力させないための項目が追加されました。前転記会計期の残高がゼロで、選択している会計期間内に取引が存在しない科目を表示させないようにできるので、帳票が見やすくなります。

⑨仮帳簿取引を含む (Include Rough Transaction) [Y / R / 空欄]

要件に応じて、次のうちから選択します。※仮帳簿 (Rough Book) を使用していない場合は表示されません。

- ・ 仮帳簿取引を含めて出力する場合は“Y”
- ・ 正式転記したものだけを出力する場合“N”
- ・ 仮帳簿だけを出力する場合は“R”

●画面サンプル 2-2. 科目と会計期を指定して総勘定元帳出力指示 (Account Listing) を出力

帳票を出力した会社 (データベース) 名

帳票を出力した日時

帳票を出力した条件 (勘定科目、会計期)

日本語デモデータベース JPY 総勘定元帳 頁 1 日付 2009/06/03 10:42

勘定科目コード: AP1002 会計期: 01/2008

会計期	取引日	取引参照	転記番号	借方金額	貸方金額	取引毎合計	外貨金額	換算コード
摘要	摘要	消込	予定日	部門	プロダ	商品	相手	レート
勘定科目コード: AP1002				名前: サン貿易商事(株)		タイプ: 債務科目		
<< 12/2007 未残高 >>				2,633,125	2,633,125	C↓		
01/2008	2008/01/10	0000207	2008/02/28	5,608,121		2,974,986		D↓
支払				分析なし				
01/2008	2008/01/10	0000207	2008/02/28	1,129,454		4,104,450		D↓
支払				分析なし				
01/2008	2008/01/30	PUR08632	0000012		3,622,521	481,929		D↓
仕入伝票				P 2008/02/28 大阪支社営業3部				
01/2008	2008/03/10	PUR0803229	0000207		985,320	503,391		C↓
仕入伝票				2008/04/30 分析なし				
01/2008	2008/03/10	PUR0806258	0000207	198,750		702,141		C↓
仕入伝票				2008/04/30 分析なし				
01/2008	2008/05/10	FA0803045	0000207	481,929		1,184,070		C↓
機械及び装置				2008/06/30 分析なし				
01/2008	2008/07/10	PUR0804296	0000207	652,310		1,836,380		C↓
仕入伝票				2008/08/31 分析なし				
01/2008	2008/09/10	FA0708127	0000207	229,635		2,066,015		C↓
機械及び装置				2008/10/31 分析なし				
01/2008	2008/09/10	PUR0804278	0000207	255,140		2,321,155		C↓
仕入伝票				2008/10/31 分析なし				
01/2008	2008/11/10	BAL07	0000207	1,985,600		4,306,755		C↓
仕入伝票				2008/12/31 分析なし				
01/2008	2008/11/10	PUR0805129	0000207	314,520		4,621,275		C↓
仕入伝票				2008/12/31 分析なし				
8	当月合計	>>		6,737,575	8,725,725	1,988,150		C↓
2	勘定科目合計	>>		6,737,575	11,358,850	4,621,275		C↓
<< 帳表合計 >>						4,621,275		C↓

仕訳データの項目 (ヘッダー) と実際の仕訳データが対応します。

勘定科目コード"AP1002" 転記会計期"01/2008"を指定して出力

(3) 試算表の出力 (TB=試算表出力指示[Trial Balance])

SunSystems の試算表 (Trial Balance) は、CA=Chart of Accounts (勘定科目表) に登録されているコード順に出力されます。

次のように、集計の設定を行うこともできます。

- ・勘定科目タイプ (Account Type) が、D=債権 (Debtor)、C=債務 (Creditor)、T=両建 (Client) の勘定科目コードが連続する場合には集計して出力することができます。
- ・LD=元帳基本定義 (Ledger Definitions) の「試算表合計出力桁数 (A/C Subtotal Characters)」の設定 (勘定科目コードの左から何桁目が変わったら合計行を表示する) により、合計行を挿入して印刷することができます。

なお、期間の条件は転記会計期 (Accounting Period) と仕訳が入力された日付 (Entry Date) で指定することができますが、取引日 (Transaction Date) を条件に出力することはできません。

また、多通貨版をご利用の場合でも試算表 (Trial Balance) は基本金額でのみ出力されます。外貨金額で出力する設定はありません。

特定の範囲の勘定科目コードごとに集計を行ったり、合計行を設定したり、外貨での出力などを行いたい場合は、ユーザー定義帳票で任意の形式で試算表 (Trial Balance) を作成します。

SunSystems で試算表を出力する場合は、「LA=元帳会計 (Ledger Accounting)」から「TB=試算表出力指示 (Trial Balance)」の画面を開きます。条件を設定せずにエンターで送った場合、画面右側の空欄時の値 (Assumption if Blank) が適用されます。

●画面サンプル 3-1. LA=元帳会計から TB=試算表出力指示 (Trial Balance) の画面を開く

項目	設定	空欄時の値
選択	転記会計期 (A) <input checked="" type="checkbox"/> 入力日 (D) <input type="checkbox"/>	A
転記会計期	始め <input type="text"/> 終わり <input type="text"/>	当季
債権残高集計	<input type="checkbox"/>	N
債務残高集計	<input type="checkbox"/>	N
両建勘定残高集計	<input type="checkbox"/>	N
仮帳簿取引を含む	<input type="checkbox"/>	N

この画面で、試算表 (Trial Balance) に出力したい仕訳データの期間や金額の集計の可否を設定します。それぞれの項目については、以下のとおりです。

①選択 (Select By) 転記会計期 (Accounting Period) / 入力日 (Entry Date)

試算表を出力する際の期間の条件を以下の2つのうちから選択します。

- ・転記会計期を範囲指定したい場合は“A”
- ・入力日を範囲指定したい場合は“D”

②始め/終り (From / To)

上記の①選択 (Select By) で指定した期間の条件について、具体的な範囲を指定します。

③債務/債権/両建勘定残高集計 (Summarise Debtor/Creditor/Client Balances) (Y/N)

CA=勘定科目表 (Chart of Accounts) で設定された勘定科目タイプ (Account Type) が、D=債権 (Debtor)、C=債務 (Creditor)、T=両建 (Client) の場合で、かつ勘定科目コードが連続した場合、勘定科目コードを1つ1つ印刷せずに1行に集計して出力することができます。集計する場合は“Y”、しない場合は“N”とします。

④仮帳簿取引を含む (Include Rough Transaction) [Y / R / 空欄]

※仮帳簿 (Rough Book) を使用していない場合は表示されません。

要件に応じて、次のうちから選択します。

- ・仮帳簿取引を含めて出力する場合は“Y”
- ・正式転記したものだけを出力する場合“N”
- ・仮帳簿だけを出力する場合は“R”

●画面サンプル 3-2. 会計期を指定して試算表 (Trial Balance) を出力

帳票を出力した会社 (データベース) 名

帳票を出力した条件 (転記会計期と範囲)

帳票を出力した日時

日本語デモデータベース JPY 試算表 印刷日 2008/06/01 21:14

転記会計期: 01/2008
終り: 13/2008

勘定科目 コード	勘定科目名	勘定科目 タイプ	開始 残高	期中 借方金額	期中 貸方金額	会計期 残高	期末 残高
1110	現金	B	5,578,522D		790,484	790,484C	4,788,038D
1111	三星銀行当座預金	B	2,523,045D			0	2,523,045D
1112	青山銀行当座預金	B	2,885,741D		27,051,722	27,051,722C	24,185,981C
1113	三星銀行ドル預金口座	B	7,000,000D			0	7,000,000D
1114	青山銀行ドル預金口座	B	1,500,000D	40,166,350	31,564,677	8,601,673D	10,101,673D
1115	三星銀行普通預金	B	41,536,247D	768,549	55,603,842	54,835,293C	13,299,046C
1116	青山銀行普通預金	B	13,625,488D	131,321,645	158,183,824	26,862,179C	13,236,680C
1117	三星銀行定期預金	B	6,958,742D			0	6,958,742D
1118	青山銀行定期預金	B	33,625,987D			0	33,625,987D
1210	商品	B	11,161,730D	8,673,518		8,673,518D	19,835,246D
1230	消耗品	B	117,364D			0	117,364D
1410	有価証券	B	32,121,300D			0	32,121,300D
1430	短期前払費用	B	150,000D			0	150,000D
1440	立替金	B	453,256D			0	453,256D
1450	未収収益	B	185,400D			0	185,400D
1460	仮払金	B	250,000D			0	250,000D
1470	貸倒引当金	B	3,000,000C			0	3,000,000C
1480	仮払消費税	B	941,795D	2,002,254		2,002,254D	2,944,049D
2105	土地	B	62,530,000D			0	62,530,000D
2110	建物付属設備	B	25,900,000D			0	25,900,000D
2120	機械及び装置	B				0	24,144,030D
2130	工具器具設備	B				0	5,679,980D
2140	車両運搬具	B				0	9,489,721D
2145	備品	B				0	5,220,400D

CA=勘定科目表 (Chart of Accounts) に登録されているコード順に勘定科目が出力される

3. SunSystems で元帳を照会する方法 (AQ=元帳照会[Account Inquiry])

SunSystems では、AQ=元帳照会 (Account Inquiry) の画面で、入力した仕訳を画面上で照会することができます。ここまでご説明してきた標準帳票に出力する際の条件指定と比べて、より細かい条件を指定して抽出する仕訳データを絞り込むことができるため、過去の仕訳を追跡調査する際に便利です。

AQ=元帳照会 (Account Inquiry) には、次の3つの画面があります。

●選択ページ (Selection Page) および分析コード選択 (Analysis Code Selections)

仕訳データを抽出して画面に表示する勘定科目コードを選択します。

転記会計期 (Accounting Period) の範囲や、取引日 (Transaction Date)、入力伝票形式 (Journal Type) など、仕訳データの条件を細かく指定して、データの抽出を行うことができます。

●取引ページ (Transaction Page)

抽出された取引の明細が表示されます。

●集計ページ (Summary Page)

抽出された取引の勘定残高など、取引の合計が表示されます。

(1) 選択ページ (Selection Page) および分析コード選択 (Analysis Code Selections)

SunSystems で元帳を照会する場合、「LA=元帳会計 (Ledger Accounting)」から「AQ=元帳照会 (Account Inquiry)」の画面を開きます。

はじめに、選択ページ (Selection Page) で、仕訳データを抽出して画面に表示する勘定科目コードを指定します。勘定科目コードを指定してエンターすると、カーソルは画面左上の「選択 (Action)」のボックスに移動します。ここで「E=抽出 (Extract)」を選択すると、全ての取引明細 (消込み済の取引および経歴ファイルは含まない) が抽出されます (抽出条件は指定されず、選択ページ (Selection Page) 右側の「空欄時の値 (Assumption if Blank)」が適用されます)。

抽出条件を設定して条件に適合した仕訳データのみを抽出する場合は、「選択 (Action)」で「A=修正 (Amend)」を選択し、抽出条件を設定した後で E=抽出 (Extract) を選択します。

抽出条件の各項目の詳細については、SunSystems のリファレンスをご参照ください。

分析コードの範囲を指定する場合には、「A=修正 (Amend)」を選択した後、選択ページ一番下の「分析コード選択指示 (Open Analysis Windows)」を“Y”にすると、「分析コード選択 (Analysis Code Selections)」画面が表示されるので、分析コードの条件を指定した後、「E=抽出 (Extract)」を選択します。

●画面サンプル 1-1. LA=元帳会計から AQ=元帳照会 (Account Inquiry) の画面を開く

項目	開始	終了	空欄時の値
消込済取引を含む			N
経歴ファイル含む			N
転記会計期	開始	終了	全部
取引日	開始	終了	全部
入力伝票形式	開始	終了	全部
仕訳入力者	開始	終了	全部
取引参照番号	開始	終了	全部
換算コード	開始	終了	全部
借方/貸方 (D/C/)			全部
取引金額	開始	終了	全部
基本金額 又は外貨金額 (B/O)			B
仮帳簿含む (Y/N)			Y
再評価含む (Y/N)			Y
分析コード選択指示 (Y/N)			N

●画面サンプル 1-2. 分析コード選択 (Analysis Code Selections) の画面

項目	開始	終了	空欄時の値
部門	開始	終了	全部
プロジェクト	開始	終了	全部
商品グループ	開始	終了	全部
従業員コード	開始	終了	全部
相手勘定科目	開始	終了	全部
消費税	開始	終了	全部

(2) 取引ページ (Transaction Page)

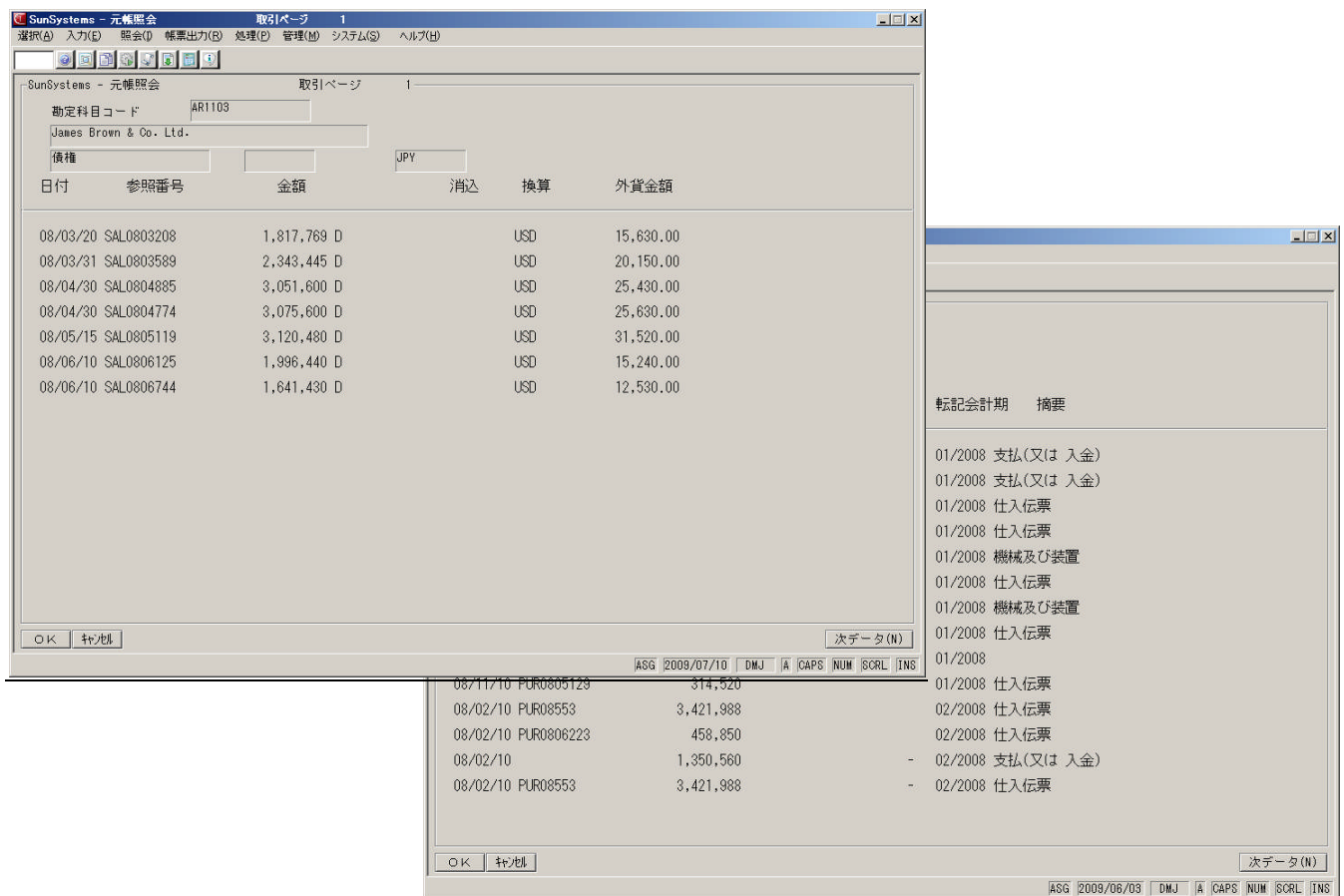
取引ページ (Transaction Page) には、選択された勘定科目の仕訳データが明細で表示されます。

各ページには最大で 14 行までの仕訳データが表示されます。画面の左半分は常に同じで、日付 (Date)、取引参照番号 (Reference)、金額 (Amount)、消込記号 (Alloc) が表示されます。

画面右側の表示は、O=オーバーレイ (Overlay) 機能により、分析 (Analysis)、換算 (Conversion)、摘要 (Description)、仕訳詳細 (Journal)、消込み (Allocation)、支払日 (Due Date) 等に変更することができます。

また、多通貨版の場合と単一通貨版では、画面右半分の初期表示項目が異なります。多通貨版は換算 (Conv)、外貨金額 (Other Amount) で、単一通貨版は、転記会計期 (Period)、摘要 (Description) です。

●画面サンプル 2-2. 取引ページ (Transaction Page) の画面 (多通貨版 (左上) と単一通貨版 (右下))



紙幅の都合上、ここで、取引ページ (Transaction Page) の機能を全てご説明することはできませんが、頻繁に使う機能をいくつかご紹介します。

①一覧表示されている画面を切り替える (ページをめくる)

取引の明細が 1 ページ (14 行) に収まりきれない場合はページを切り替えます。「選択 (Action)」に、次のコマンドを入力します。

- F=最初 最初のページを表示
- L=最後 最後のページを表示
- N=次データ (Next) 次のページを表示
- B=前データ (Back) 現在表示されている前のページを表示

②オーバーレイ (Overlay) 機能で表示されていない項目を表示する

O=オーバーレイ (Overlay) 機能で、取引ページ (Transaction Page) の画面右半分の表示項目を切り替えて、確認したい項目を表示することができます。「選択 (Action)」に次のコマンドを入力します。

- OA=分析 (Overlay-Analysis) T分析コード0から右へ順に表示
- OD=摘要 (Overlay-Description) 摘要、入力者 (入力または転記したオペレータ ID)
- OJ=仕訳 (Overlay-Journal) 伝票形式、転記番号、行番号、入力会計期
- OC=外貨金額 (Overlay-Conversion) 換算 (換算コード)、外貨金額 (多通貨版のみ)
- OU=支払日 (Overlay-Due Date) 支払 (入金) 予定日、入力日、会計期 (転記会計期)
- OL=消込情報 (Overlay-Allocation) 消込処理番号、消込日、消込会計期
- 00~9=分析 (Analysis) 指定した番号の分析コードを右から順に表示

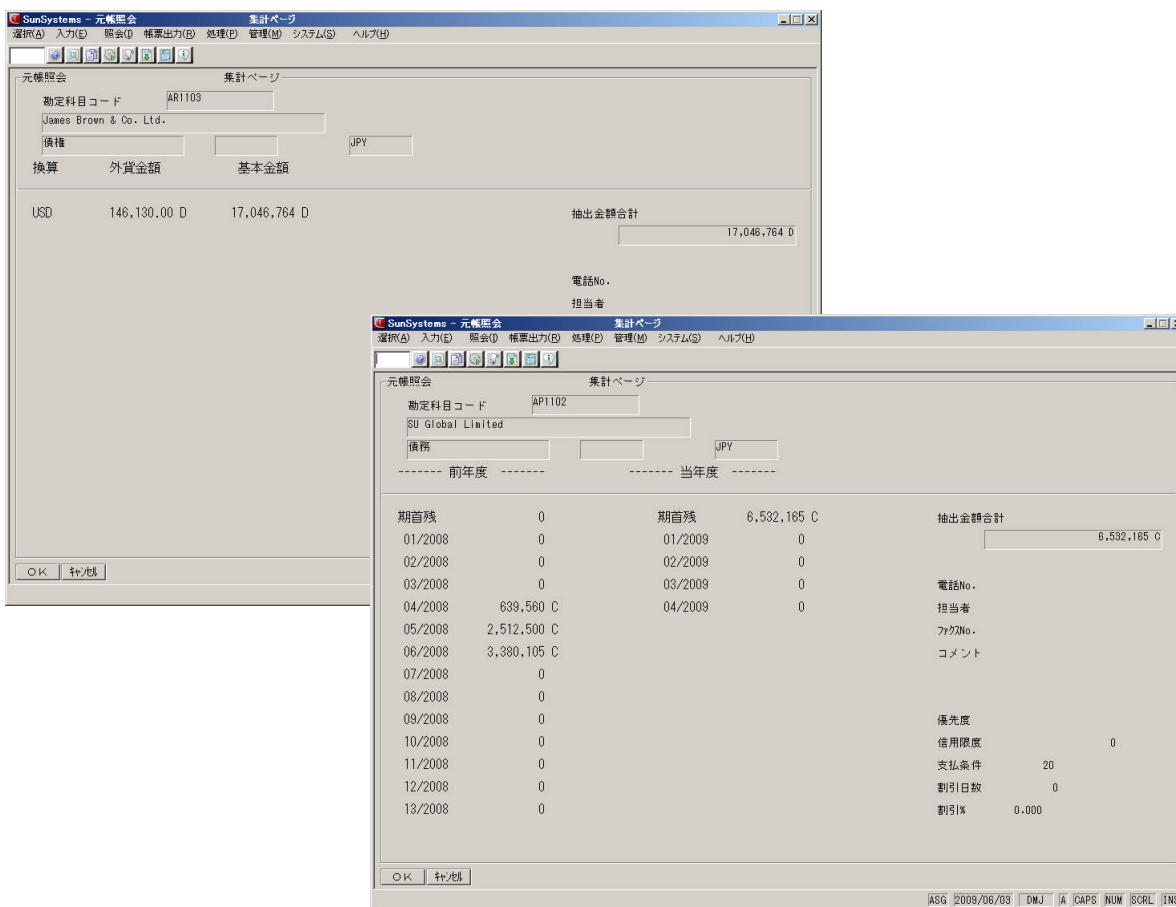
③帳票出力 (Report)

R =帳票出力 (Report) を選択すると、選択ページで指定した条件で抽出 (Extract) された仕訳データを、総勘定元帳 (Account Listing) の書式で印刷することができます。書式コード (Report Code) を入力するウィンドウが表示されるので、書式コード (Report Code) を指定し、P =プリンタ出力 (Print) または、S =ディスク出力 (Store on Disk) を選択して出力します。

(3) SP=集計ページ (Summary Page)

選択された勘定科目の残高等を表示させるには、SP=集計ページ (Summary Page) 選択します。多通貨版の場合には、標準で、「換算 (Conversion)」の画面が表示され、外貨建ての残高が表示されます。また、OP=オーバーレイ- 会計期 (Overlay - Period) を選択することにより、表示を切り替えて、会計期ごとの基本通貨残高を表示することができます。単一通貨版の場合には、標準でこの「会計期 (Period)」が表示されます。

●画面サンプル 3-1. SP=集計ページ (Summary Page) の画面 (多通貨版 (左上) と単一通貨版 (右下))



以上